

## <指導上のポイント>

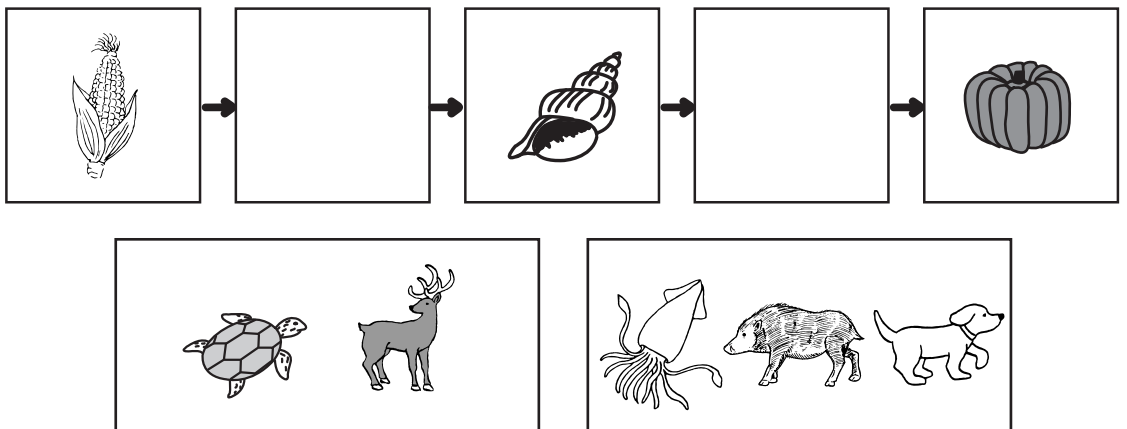
「しりとり」問題の出題頻度は、中程度といったところでしょう。「しりとり」だけの考え方でできる問題は簡単なのですが、「あたまとり」の考え方が必要な問題が、最近は多く出題されているので、注意が必要です。

「あたまとり」の考え方は、下図のように「しりとり」の考え方だけでは解決できないときに必要です。下図の□の中に入るものを見つけるとき、「い」から始まるものを探すだけでは解決しません。「いか」「いのしし」「いぬ」と、全てあたまに「い」がつくので、「しりとり」の考え方ではどれを選べばよいかわからないからです。言うまでもないことですが、どれにするかは次に来る「かぼちゃ」によって決まります。すなわち、「か」で終わるもの、つまり、「い」で始まり「か」で終わるものが、□の中に入るのです。

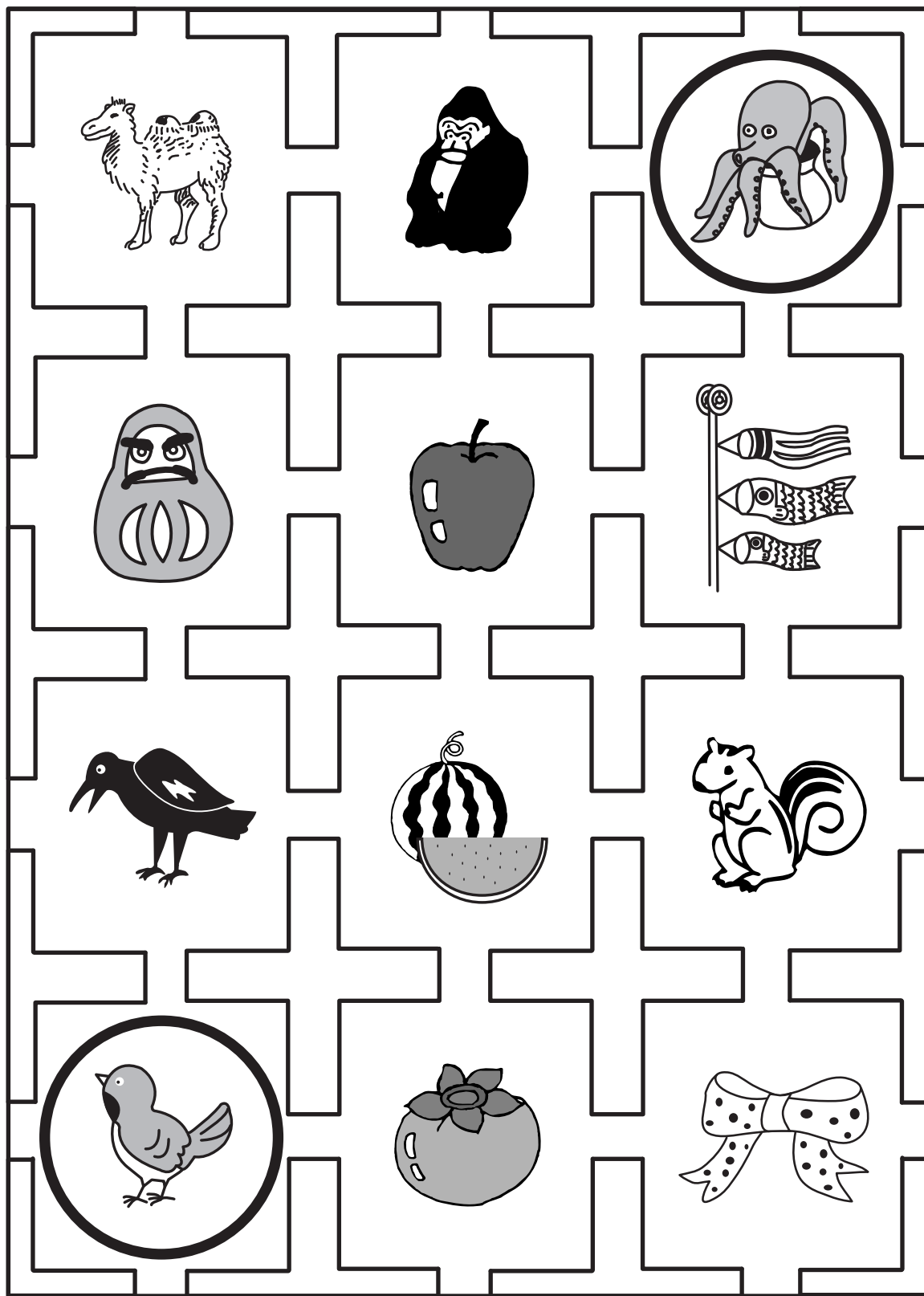
「しりとり」の問題に限らず、全ての問題は全体的にとらえられているかどうかテストされるのです。部分部分だけを見たり、前から順番にしか考えられないようでは、十分な能力がついているとは言えないからです。

「あたまとり」の考え方ができれば、下図のような問題を後ろから解答することができるようになり、「かぼちゃ」の「か」で終わるものが「いか」、「かい」の「か」で終わるものが「しか」というふうに、簡単に解答できるようになるのです。

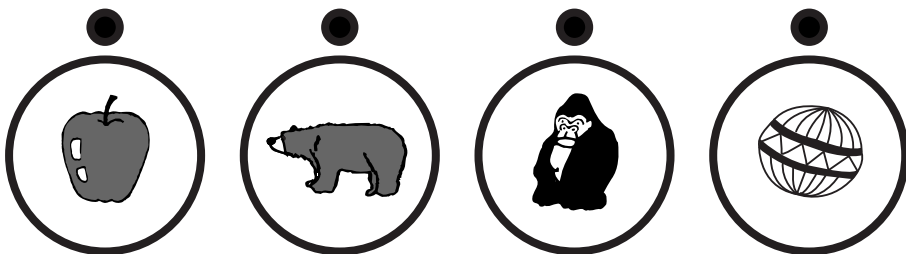
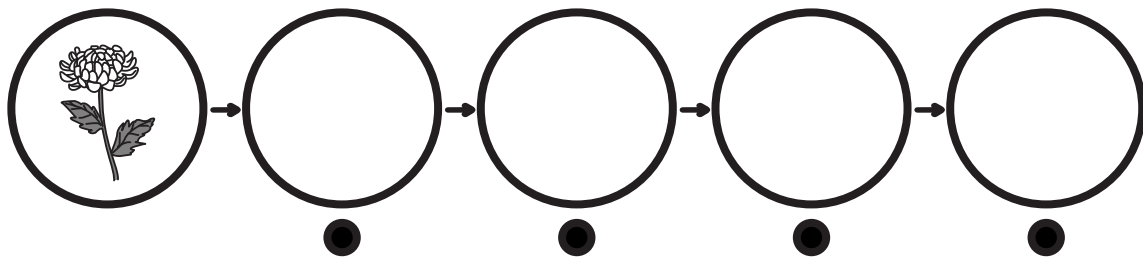
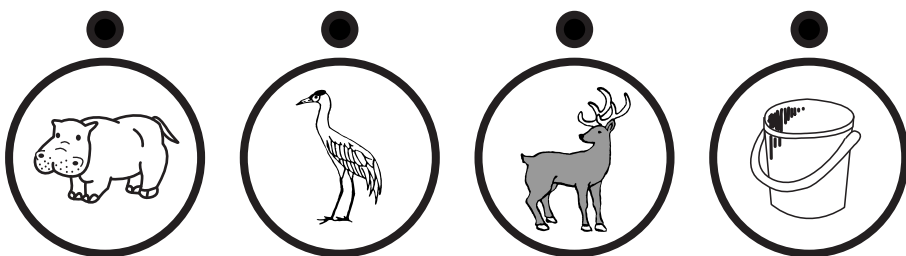
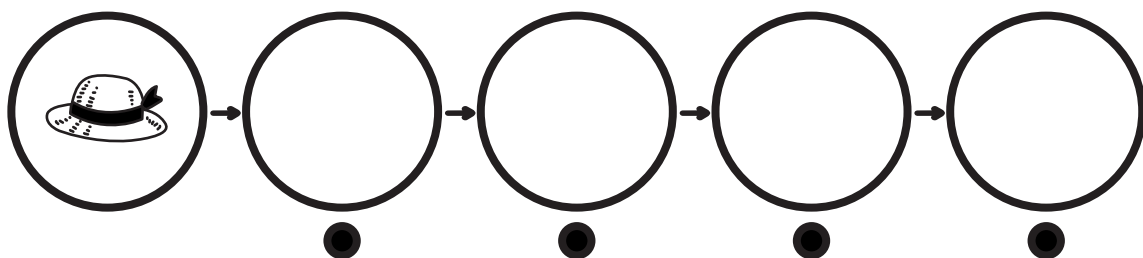
日頃から、「しりとり」だけでなく、「あたまとり」も十分にトレーニングしておいていただきたいものです。



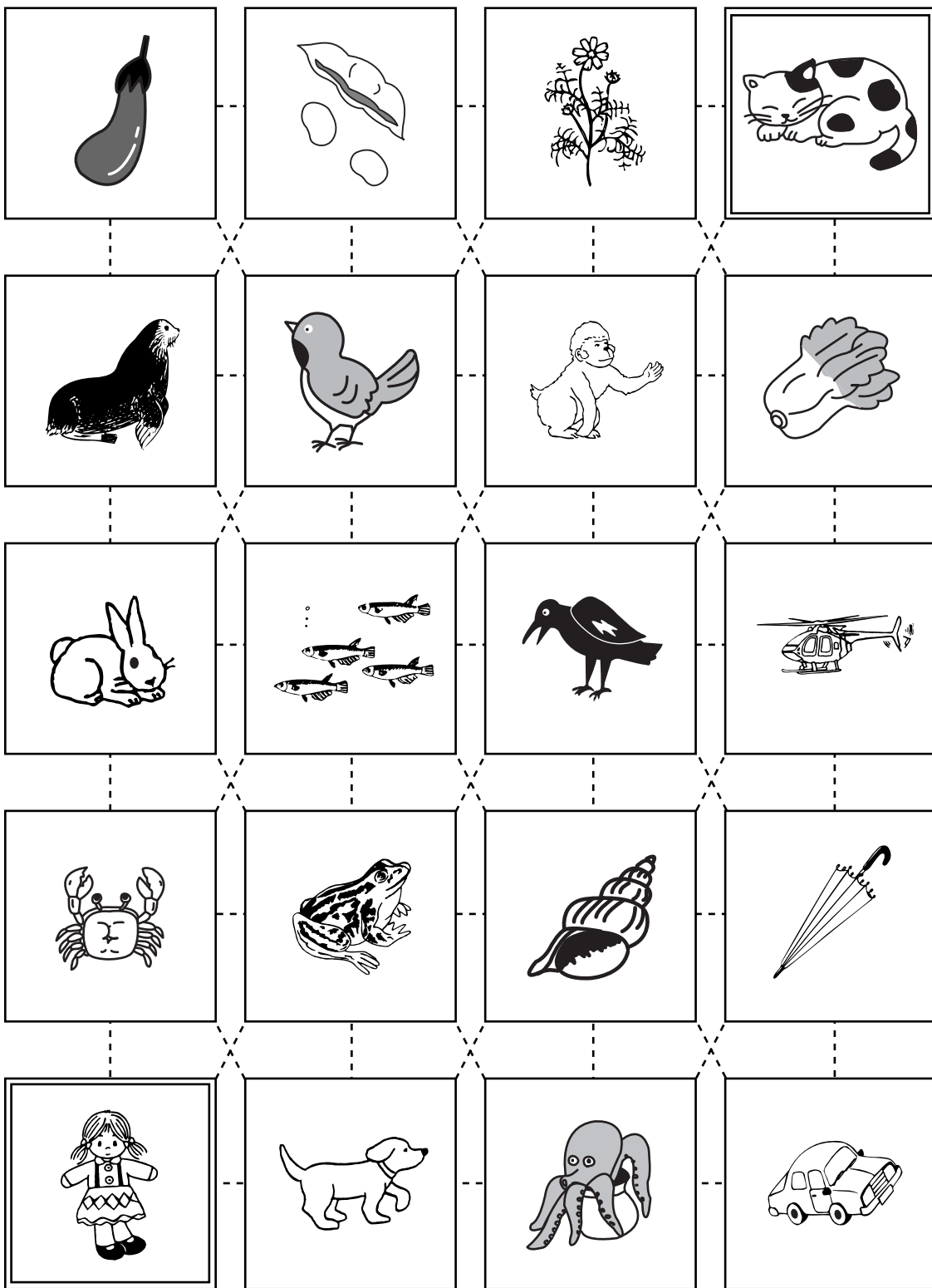
<例題1> 「たこ」から「すずめ」まで、しりとりをしながら  
線をかいていきましょう。



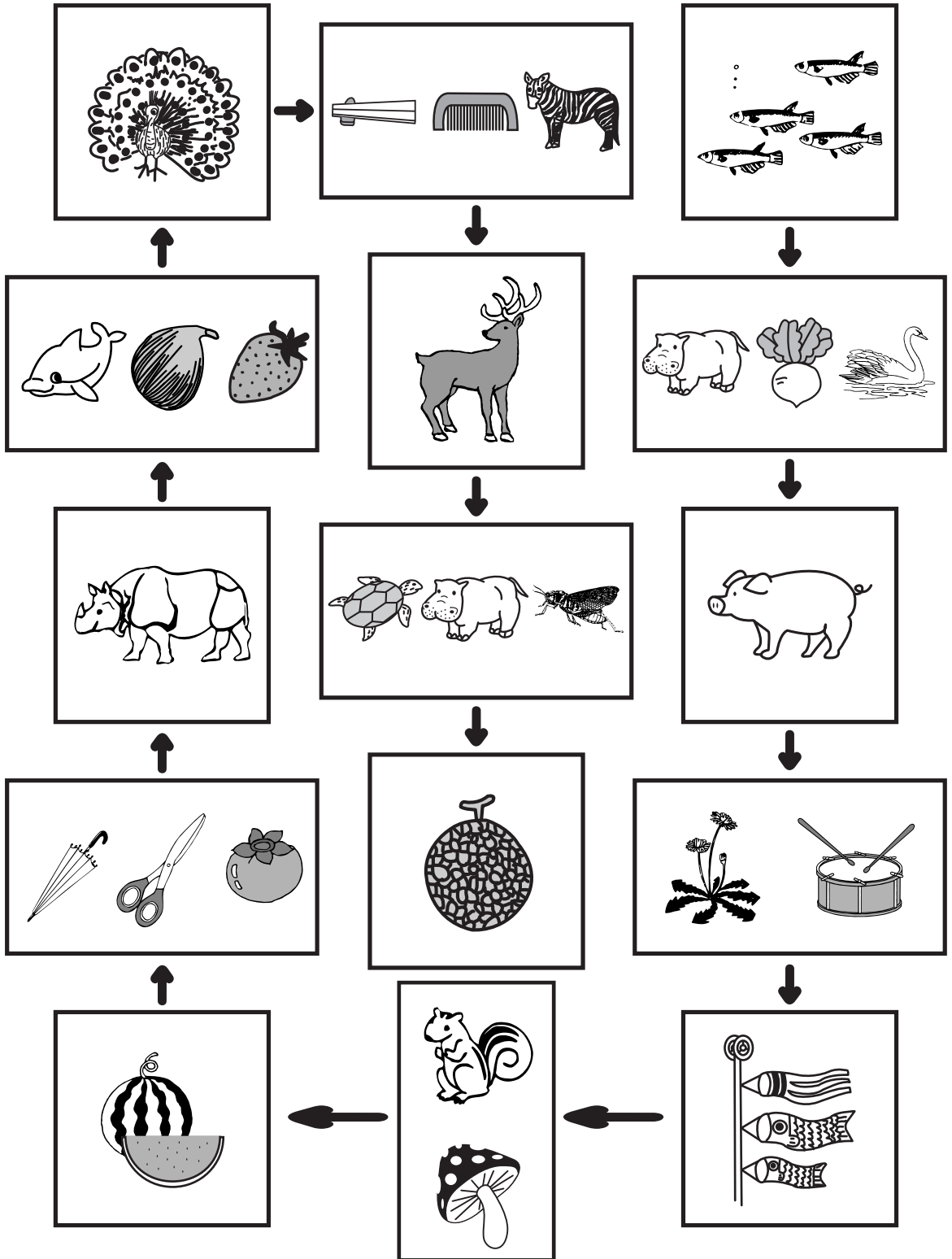
<例題 6 > しりとりをするには、下のどの絵を入れるとよい  
でしょうか？下から絵を選んで線で結びなさい。










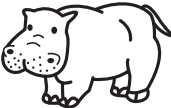


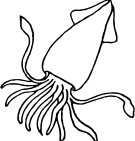









<例題1>の類題① 「ねこ」から「人形」まで、しりとりを  
しましょう。



<例題 2>の類題① しりとりができるように、適当なものに  
○をつけなさい。



<例題5>の類題 左端から右端まで、しりとりができるものを見つけて○をしなさい。

<例題 9>の類題 音が2つ、3つ、4つと増えていくものでしりとりをします。では、空いているところに合うものを、右から選んで○をつけましょう。

